



教育課程指導資料

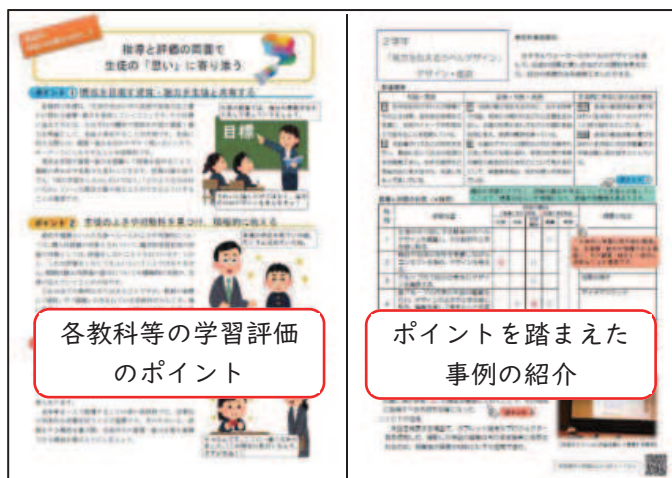
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
～学習評価の在り方について(中学校)～

令和3年2月



目 次

あいさつ	1
国語	2
社会	4
数学	6
理科	8
音楽	10
美術	12
保健体育	14
技術・家庭（技術分野）	16
技術・家庭（家庭分野）	18
外国語	20
道徳	22
総合的な学習の時間	24
特別活動	26
学習評価について	28
実践事例一覧	30
研究員一覧	31



評価の改善のために、
教師が具体的にどうするのかを、
簡潔にまとめました。



Web サイトの紹介

本冊子で紹介をしている実践事例の詳細は、義務教育課教育指導担当 Web サイト内の「教育課程研究会」のページに掲載してあります。指導案だけでなく、実際の授業の様子や授業改善のポイントなども端的にまとめてありますので、ぜひ、ご覧ください。

また、こちらの Web サイトでは、これまでに義務教育課で作成した次の資料等もダウンロードすることができます。これらの資料等も併せてご活用ください。

- 指導重点説明会資料
- キャリア教育資料
- ふるさと山梨郷土学習資料
- 家庭学習資料
- 防災教育資料

本冊子と併せて、
こちらの Web サイトも
ご活用ください。



義務教育課教育指導担当 Web サイト

<https://www.pref.yamanashi.jp/gimukyo/shido/>



あいさつ

令和3年度から中学校で全面実施となる新学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」という視点からの教育課程の改善・充実を図ることが求められています。

「何ができるようになるか」、育成を目指す資質・能力を身に付けさせていくためには、「何が身に付いたか」という学習評価について、その充実を図り、学習指導との一体化を進めていくことが必要です。

令和元年6月には、国立教育政策研究所より「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校編）」が発行され、学習評価を充実させていくための基本的な考え方として、次の3点が挙げられました。

- ① 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ② 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習指導と学習評価は学校の教育活動の根幹であり、「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。また、「どのように学ぶか」を具現化する「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善においても、学習評価の充実は欠かすことができません。

山梨県教育委員会では、学習指導要領に基づいた教育課程の一層の充実を図るため、教育課程研究会を組織し、学習指導の工夫・改善や適切な評価の在り方等について研究を進め、その成果の普及を図っています。本年度は、中学校に焦点を当て、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、生徒の資質・能力を育むことを目指し、学習評価の改善に資する指導資料を発行いたします。

また、各学校における活用が促進されるよう、教育課程研究会のWebサイトには、本指導資料の他、具体的な実践事例を併せて掲載します。

学習評価の充実は、目の前の子供たちの姿を踏まえた不断の授業改善につながるものと考えます。これらの資料が広く活用され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が促進され、子供たちが意欲を持って学び、未来の創り手となり得る生きる力を身に付けることを期待します。

令和3年2月

山梨県教育庁義務教育課長 中込 司

魅力ある言語活動を設定し、 評価場面を精選する

ポイント ① 魅力ある言語活動を設定する

新学習指導要領においても、言語活動の重要性は継承されています。これは、指導事項を指導者による教授や反復練習だけで身に付けさせるのではなく、実生活で行われる具体的な言語活動を通して指導することを示しています。言語活動を設定することで、単元の大きな流れの中で、学習課題の解決に向けて、生徒が主体的に試行錯誤する場面が生まれます。その過程で、資質・能力が育成されます。

言語活動を具体化する際に、以下の点に留意しましょう。

- ①身に付けさせたい力に合わせて、言葉に着目しながら思考、判断、表現させる場面を設定する。
→ [知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]を関連させる。
- ②生徒に言語活動への興味をもたせ、主体的な学習につなげる。
→ 生徒が見通しをもって学習に取り組んだり、実生活とのつながりを意識したりすることができるようにする。
- ③目標の達成に向かって試行錯誤しながら、生徒が自ら学習を進める場面を設定する。
→ 教師が設定したスモールステップだけで授業が進むのではなく、生徒が自らの学習の進め方を決定することができるようにする。

ポイント ② 評価場面を精選する

学習評価については、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要です。観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの状況を把握できる段階で行うなど、評価場面を精選しましょう。

そして、単元を構想する際には、各時間の具体的な学習活動を踏まえ、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するか、指導と評価の計画を立てます。

右の事例では、第3時の物語を記述する場面で[知識・技能]を、第4時の物語を交流する場面で[主体的に学習に取り組む態度]を、第5時の物語を推敲する場面で[思考・判断・表現]の評価をしています。身に付けさせたい資質・能力が発揮される場面で適切に見取り、評価することが大切になります。



第4時 物語の交流の場面

ここでは、物語の交流を通して語句の差異や技法の効果的な用法について考え、友人の意見を基に次時に向けて工夫点を見いだしているかを見取る。

交流をして終わりではなく、次時の推敲に向けて、見通しをもって描写の工夫を考えさせる。

ポイント ③ 生徒の具体的な姿を想定する

言語活動を設定し、指導と評価の計画を立てたら、指導者が実際に言語活動を行ってみましょう。

右の実践では、指導者が実際に物語文を書くことで、評価規準を基に、学習活動を踏まえて「おおむね満足できる」状況(B)と判断する、生徒の具体的な姿を想定しています。このように想定することで、何をどのように評価するかが具体的にイメージでき、身に付けさせたい資質・能力に応じた指導のポイントも明確になります。また、「十分満足できる」状況(A)や「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への手立てを考える際にも有効です。

2学年（B書くこと）

「あの日の自分」の物語を書こう
～表現の効果を考えて描写する～

国語科実践事例

物語を書くことを通して、効果的な描写を考え、より読み手のイメージがふくらむ表現や言葉を繰り返し吟味したり、問い直したりする。

ポイント 1 どのような資質・能力を身に付けるために、どのような学習を行うのかが分かるようにします。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ	①「書くこと」において、表現の効果を考えて描写し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	①粘り強く表現の効果を考えて描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。

指導と評価の計画（全5時間）

時	学習活動	評価する内容	評価方法
1 ・ 2	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○日常生活や行事を振り返り、物語の題材にしたい出来事を選ぶ。出来事は詳しく思い出し、メモに書き留める。 ○物語の山場を意識し、あらすじを考える。	ポイント 2 第1・2時は、B(1)ア・イに基づいて学習状況を捉え指導を行います。単元の目標としていないことから、本単元の評価には含みません。	
3 ・ 4	○描写を工夫して物語を書く。 ポイント 3 ここでは、類語辞典等を使い、複数の言葉の意味の差異を理解しているかどうかをワークシートの記述や生徒の作品から確認します。 ○物語を読み合い、意見や感想を交流する。 ポイント 3 ここでは、友達の助言を踏まえ、見通しをもって描写を工夫しようとしているかどうかを生徒の姿やワークシートの記述から確認します。	[知識・技能] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	ワークシート・物語 観察・ワークシート
5	○前時までの見通しを基に、推敲する。 ○最初に書いた物語と推敲した物語とを読み比べて、良くなったと思う箇所を示し、描写の工夫や言葉の選出の観点から振り返る。 ○単元の学習を振り返る。	[思考・判断・表現] ① ポイント 3 ここでは、表現の効果を考えて描写を工夫し、自分の考えが伝わる文章になっているかをワークシートの記述や生徒の作品から確認します。	ワークシート・物語

授業改善のポイント

本実践では、第3時で学習した、「言葉の意味の差異を理解して使うこと」や既習事項（文学的文章を読む際に学んだ表現技法等）を振り返らせながら、第5時の学習を行った。〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕を関連させることが、生徒の資質・能力の育成につながる。

実践事例の詳細は右のQRコードから



指導と評価の工夫で 生徒に学びの深まりを実感させる



ポイント 1 ゴールから授業を設計する

社会科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成すること」です。この目標を達成するために、日々の授業を課題解決的な学習に改善していくことが求められています。

社会科の特性として、どうしても学習内容の教授が中心になる傾向があります。しかし、育成すべき資質・能力から学習内容を構成し、適切な問い（学習課題）でつなぐことができれば、日々の授業を課題解決的な学習に改善できると考えます。

<取組の手順（例）>

- ① 育成すべき資質・能力を書き出し、単元のまとめの例を作成する。
- ② 生徒が単元のまとめを表現できるような学習活動や学習課題等を逆算して設定する。
- ③ 単元を通して追究したくなるような単元を貫く問いを設定する。

ポイント 2 評価する時期や場面を精選する

単元の指導計画において、「評定に用いる評価（○）」と「学習改善につなげる評価（●）」を区別して位置付け、単元の途中で「学習改善につなげる評価」を行い、適切に指導することが、これまで以上に大切になってきています。また、「学習改善につなげる評価」は、下表のような評価場面に限らず、適宜実施し、生徒にフィードバックして資質・能力の育成を図ることが大切です。そのため、評価する時期や場面を精選し、適切に指導していくことに重点を置く必要があります。

氏名	観点\次	単元の導入	第一次	第二次	第三次	第四次	単元のまとめ	単元の観点別評価
国研太郎	知・技		●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%		A～C
	思・判・表		●	●	●	●	○100%	A～C
	主体的態度	●		●			○100%	A～C

（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）より作成）

<取組の手順（例）>

- ① 「評定に用いる評価」と「学習改善につなげる評価」を用いた単元の指導計画を作成する。
- ② 単元の学習過程に、生徒が学習状況の改善を図る機会を設定し、適切な指導を行う。

ポイント 3 「学びの地図」の活用を図る

「学びの地図」は、生徒の思考を可視化し、生徒自身が学習調整を行う際に、極めて大きな役割を果たすことが期待できます。また、教師が「評定に用いる評価」や「学習改善につなげる評価」を行う際の評価資料としても大きな価値があります。そのため、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、単元の始めに見通しを立てることや、単元の学習を振り返る時間をしっかり確保することが大切になります。そうすることで、単元末で次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容から、生徒に学びの深まりを実感させることができると考えます。

（注）ここでは、「参考資料」P90にある「単元を見通して学び、振り返るワークシートの例」を「学びの地図」と呼ぶ。

<取組の手順（例）>

- ① 観点別学習状況の評価するため、「学びの地図」を見取る方法を工夫する。
- ② 「学びの地図」を用いて、観点ごとの評価の総括を行う。



3学年

「個人の尊重と日本国憲法」

C(1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

社会科実践事例

「日本国憲法は、今の私たちの生活にどのように関わっているのか」という単元を貫く問いを設定し、「学びの地図」を活用して課題解決的な学習に取り組んだ。



ポイント 1

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。 民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。 日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。 日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

小単元の学習課題を逆向きに設計し、単元を貫く問いをどう設定するかが工夫のしどころです。

指導と評価の計画（第三次のみ抜粋・全14時間）

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
第三次 3時間	【第三次の問い】 人々の平和への願いは、日本国憲法にどのように生かされるべきなのか。				●憲法条文から、日本の平和主義の特徴を整理している。 （ワークシート） ●他国の憲法と日本の憲法を比較し、日本の平和主義の特徴をまとめている。 （ワークシート・学びの地図）
	10 日本の平和主義 ・生徒のもつ平和観を確認する。 （平和だと思うときをカードに記入） ・日本国憲法が示している平和主義について理解する。 ・日本の平和主義を他国と比較し、特徴をまとめる。	●	●		○日米安全保障条約、集団的自衛権、沖縄の基地問題について理解している。 （ワークシート）
	12 平和主義のこれから【本時】 ・現代社会の政治的課題に意欲的に取り組み、社会的見方・考え方を働かせ、課題解決を図る。 ・これからの日本の平和の在り方を、日本国憲法ができた経緯や国際情勢と照らし合わせて、社会的な見方・考え方を働かせて意見をまとめる。		●	●	●自分の平和主義との向き合い方を、意欲的に考えようとしている。 （観察・ワークシート） ●これからの日本の平和の在り方を、日本国憲法誕生の経緯や国際情勢を踏まえて考えている。 （学びの地図）



「主体的に学習に取り組む態度」においても、観点の重点化を図り、その見取りと適切な指導を一体的に進めましょう。

ポイント 3

授業改善のポイント

- 生徒が“単元を貫く問いに対する疑問点”を学習前に整理する
単元を貫く問いの解決を図る授業を通して、学ぶ価値や必要性を認識することができる。また、学習後の自分の考えの変化に気づき、学習意欲の向上につながる。
- 「学びの地図」の2つの効果
「学びの地図」を活用した学習評価は、生徒には理解が曖昧な部分や認識が誤っている部分の学習調整を促し、教師には適切な指導を行う上での資料となる。



評価する資質・能力が発揮される 数学的活動を構成する

ポイント ① 授業のねらいを明確化し、評価の観点を精選する

日々の授業の中では生徒の学習状況を適宜把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、評価の記録については、単元や題材等のまとまりの中で、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行うなど評価場面の精選をすることが大切です。

数学科における単元の多くは、「〇〇〇の利用」のように、単元前半の既習事項を利用して問題を解決する学習活動が設定されています。例えば、「一次関数のグラフの利用」の授業について考えてみます。そこでの問題解決の過程には、既習事項を利用して「一次関数の関係を式やグラフに表す」場面がありますが、その指導や評価に多くの時間を費やしていないでしょうか。単元全体から見れば、この授業で重視すべきなのは、既習事項を利用して問題解決の方法を説明したり、結論が成り立つ理由を説明したりすることです。授業のねらいを明確化し、評価の観点を精選することが大切です。

ポイント ② 生徒に記述させたい事柄を明確にした問いを構成する

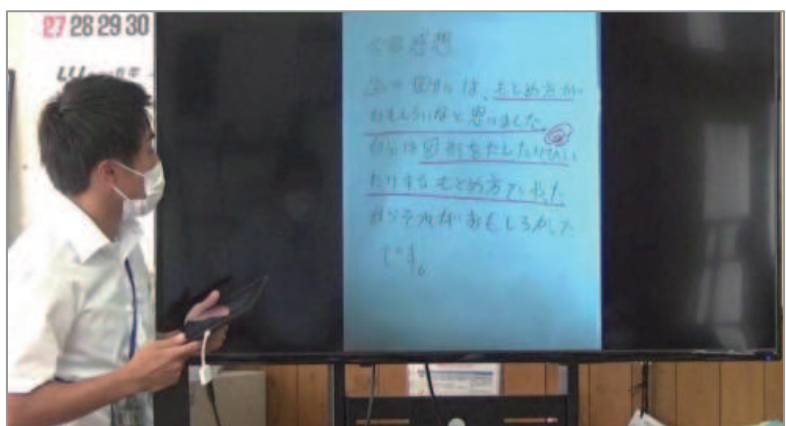
「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、単元の評価規準に基づいて、「おおむね満足できる」状況（B）や「十分満足できる」状況（A）にある生徒の具体的な姿を想定し、それを生徒に発揮させるための問いを構成しておくことが大切です。

例えば、相似比が1：4である三角形の面積比を予想し、そう考えた理由を説明する場面で、生徒の記述を「相似な図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしている」という「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準で評価することを考えます。根拠となる事柄を既習事項から見だし、それを明示して説明していれば「おおむね満足できる」状況と捉え、さらにその方法を文字式を用いるなどして一般的に説明していれば「十分満足できる」状況と捉えることが考えられます。生徒にこのような記述を求める際には、評価規準を踏まえた適切な問いを構成し、板書やワークシート等を通じて生徒に示した上で記述させることが大切です。

ポイント ③ 評価規準を満たしている生徒の記述を紹介し、共有する

生徒の記述を基に評価を行う際には、どのように記述できればよいかについて、生徒自身が理解していることが大切です。そのためには、評価規準を満たしている生徒の実際の記述内容を紹介する場面を設定し、全体で共有する機会を設けることが考えられます。

例えば、授業の導入で前時の学習を振り返る際に、生徒のノートを紹介し、その記述から問題発見につなげていくことも考えられます。右の写真は、本研究会の小学校算数の実践における導入場面です。図形の面積の求め方で「図形をたしたりひいたりする求め方でやった」という児童の記述をタブレットに取り込んで共有し、効果的に本時の学習につなげています。



3学年

「相似な図形」

第3学年 B(1) 図形の相似

数学科実践事例

相似比が1：4である三角形の面積比を予想し、その理由を説明する場面を設定する。相似な図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしているかどうかを評価する。

単元の評価規準（一部抜粋）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
③相似な図形の相似比を求めたり、相似な図形の辺の長さや面積、体積を、相似比を基にして求めたりすることができる。	③相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。	②相似な図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。

指導と評価の計画（全21時間のうち、小単元3から一部抜粋）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
17本時	相似比が1：4の三角形で、相似比と面積比の関係について調べる活動を通して、 ・相似な三角形で、相似比と面積比の関係について考えようとする態度を養う。 ・相似な三角形における相似比と面積比の関係を見いだすことができる。	ポイント① 態 思	○	知③は次時で評価する。 態②：ノート、行動観察 思③：行動観察

本時の展開

指導と学習活動	評価と配慮事項
1. 前時までの学習を振り返る。 2. 問題を把握する。 相似比が1：4である三角形の面積比を予想し、そう考えた理由をこれまで学習したことを利用して考えよう。 めあて：相似な三角形の相似比と面積比の関係を、これまで学習したことをもとに調べてみよう	・前時の「授業Checkカード」の記述を紹介する。 評価規準に即した表現で問いを構成する。
3. 自力解決をし、他者と共有する。 ◇自分で立てた予想が成り立つ理由を、これまで学習したことを利用して説明してみよう。 4. 適用問題について考える。 相似比が3：4である三角形の面積比を求め、その理由について根拠を示して説明しよう。 まとめ：相似比が $m:n$ の三角形では、面積比は $m^2:n^2$ となる	○態②：ノート、行動観察 思③：行動観察 ※必要に応じて、ここでも態②思③の評価をする。
5. 本時の学習を振り返る。（分かったこと・学習感想） ◇次時の学習で探究したいことは何だろうか。	・振り返りの内容を次時以降の学習や指導に生かす。

授業改善のポイント

- ①本時のねらいは、既習事項を活用して相似比と面積比の関係を考察することである。相似比が1：4や3：4の三角形について面積を求めて比較する活動を通して、底辺の長さと高さがどちらも相似比を基にしていることに気付くことができる。このような気付きを大切に、相似比が $m:n$ の場合へと一般化し、本時のまとめにつながるようにする。
- ②予想の理由を説明する場面で、「相似な図形の対応する部分の長さの比は等しい」等の既習事項を確認し、何を根拠としたかを記述するよう指示することが大切である。根拠の記述があればBと評価し、文字式等で一般的に説明していればAと評価することが考えられる。



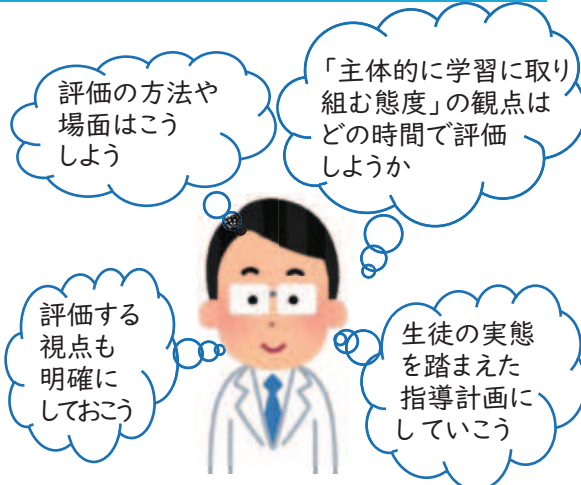
生徒の実態を把握し、 単元の計画や指導改善に生かす



ポイント ① 単元全体を見通した、指導と評価の計画を作成する

まず、「単元」の捉え方を再確認してください。国立教育政策研究所作成の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（以下：「参考資料」）の第3編「単元ごとの学習評価について（事例）」では、「単元（中項目）」と示されています。この「中項目」について、学習指導要領で示されている内容に照らし合わせると、例えば「(1) 身近な物理現象」を大項目、「(ア) 光と音」及び「(イ) 力の働き」を「中項目」と区別しています。（参考資料P30）

このことを参考に各校で学習指導要領の目標や内容、生徒の実態等を踏まえた、単元の目標や評価規準を作成し、単元を見通した評価場面や評価方法を計画しましょう。



ポイント ② 評価の場면을精選し、観点別学習状況の評価を工夫する

指導と評価の計画の作成では、生徒全員の学習状況を記録に残す場면을精選し、かつ適切に評価するための評価の計画が一層重要になります。このとき、各観点の学習状況をどのように見取り、評価していくかを考える必要があります。

右頁の実践では、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」の評価について研究しました。「主体的に学習に取り組む態度」では、課題を解決できたか、説明できたかを評価するのではなく、生徒が成功や失敗の中から何に気付いたか、自己調整できているかなど、課題を解決しようとする過程を評価しています。各観点の評価について、参考資料の事例や本研究の事例を参考にして、生徒の資質・能力の育成につながるような工夫をしていきましょう。

生徒の課題解決の過程を振り返った記述から、粘り強い取組や自らの学習を調整しようとしているかを見取る



ポイント ③ 評価を生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる

学習評価を真に意味のあるものにするためには、学習過程や成果を適切に評価し、生徒の学習改善につなげるだけでなく、教師の指導改善につなげることが重要です。また、生徒に学習の見通しをもたせるために、必要に応じて学習評価の方針を生徒と共有することが求められており、生徒に学習評価をフィードバックする際には、評価の方針を再度共有することが重要です。

指導資料（Web版）では、学習評価を受けて生徒がどのような学習改善をしたか、または、教師がどのような指導改善をしたかも事例に載せてありますので、「指導と評価の一体化」の実現に向けて、参考にしてください。



生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切

3学年

「水溶液とイオン」

第1分野(6) 化学変化とイオン ア(ア) ㊦

理科実践事例

本事例では、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する実践に取り組んだ。「電解質とは何か」という問いに対して、どのように知識を活用して解決しようとしたかをワークシートの記述から見取っている。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、原子の成り立ちとイオンについて基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	水溶液とイオンについて、見通しをもって観察、実験などを行い、水溶液の電気伝導性と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見だして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	水溶液とイオンに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

1~5時間目で学習した知識を活用して、6時間目の課題に取り組むことで「主体的に学習の取り組み態度」の評価をする計画になっている。

指導と評価の計画 (一部省略) ← **ポイント 1**

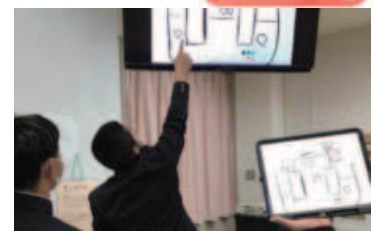
時間	ねらい・学習計画	重点	記録	備考
1	・いろいろな水溶液に電流が流れるかどうか調べる。	知		内容を省略
2	・前時に行った実験の結果を分析して解釈し、実験で使用した物質を電解…	思		
3	・塩酸を電気分解する実験を行い、気体の性質から、水素と塩素が生成し…	知		
4	・前時に行った実験の結果を分析して解釈し、陰極と陽極にそれぞれ水素…	思	○	
5	・塩化銅水溶液を電気分解する実験を行い、固体と気体の性質から、銅と…	思	○	
6 (本時)	・電気分解で陰極と陽極にそれぞれ決まった物質が生成することに着目して、電解質の水溶液中に電気を帯びた粒子が存在することを理解し、電解質とは何か説明する。	態	○	
7	・原子の構造について理解する。	知		
8	・イオンのでき方について、原子の構造と関連付けて、モデルを用いて表…	思	○	
9	・電解質の水溶液中の電離のようすについて、原子のモデルと関連付けな…	態	○	
10	・水溶液とイオンに関する学習を振り返り、概念的な知識を身に付けてい…	知	○	

授業改善のポイント **重要!**

- ①本時の学習状況を見取るための「本時の学習の振り返り」をワークシートに記入する際に、生徒に「振り返りを書くときの着目点」を示した。これによって、生徒が何に着目して振り返りをすればよいのかイメージしやすくなった。また、教師が見取りたい内容が生徒の記述に含まれていないと適切な学習評価ができないため、評価の方針を生徒と共有するという意味もある。 ← **ポイント 2**
- ②本時の学習の評価がAだった生徒の記述を共有し、改めて「振り返りを書くときの着目点」を確認した。それによって本時の評価がBだった生徒が、第9時の「主体的に学習に取り組む態度」を評価する場面では、記述の内容に変容が見られ評価がAになった。 ← **ポイント 3**

ICTの活用にチャレンジ

各班の発表の場でタブレットのミラーリング機能を活用した。タブレット上で班ごとに考察した内容を大型モニターに表示して、学級全体で共有することで、生徒の学びに深まりが見られた。ICTを活用することで、学級全体での意見や考察の共有が効率的に行えるようになった。





生徒の知覚・感受を基に 思考・判断し表現する姿を学習活動から見取る

ポイント ① 題材構想の段階で明確なねらいをもつ

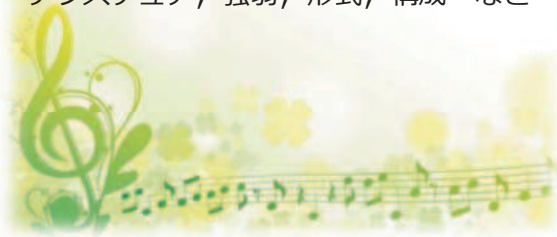
新学習指導要領の全面実施に伴い、資質・能力の育成に向けて、知覚・感受を基に思考・判断し表現する一連の過程を大切に授業づくりをしていくことがより一層求められます。解説では、「A表現」「B鑑賞」の各領域の指導について、指導事項を相互に関連付けながら題材を構想することが示されています。そのため、題材構想の段階で「どの指導事項を組み合わせる指導していくか」という点を明確にしていく必要があります。題材を通して生徒にどのような力を身に付けさせたいのか、ゴールをどこに設定するのかを明確にすることで、教材や活動を通して何を学ぶのか、という学習内容を焦点化するとともに、評価の場面を精選することにもつながっていきます。

ポイント ② 音楽を形づくっている要素を適切に選択する

新学習指導要領において、〔共通事項〕(1)の事項アは「思考力、判断力、表現力等」、事項イは「知識」に関する資質・能力として示されています。事項アについては、「本題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」を教師が適切に選択し、それらを支えとして生徒が知覚・感受することで、思考・判断したり、知識を得たり生かしたりすることができるよう指導していきます。音楽を形づくっている要素については、右に示した具体例の中から、本題材で生徒全員によりどころとさせたいものを焦点化して選択していくようにしましょう。

【音楽を形づくっている要素】

音色、リズム、速度、旋律、
テクスチャ、強弱、形式、構成 など



ポイント ③ 資質・能力を育成するために学習活動を工夫する

題材を通して生徒に身に付けさせたい力を育成するためには、学習活動の工夫が必須です。生徒が思いや意図をもって表現したり、よさや美しさを味わって聴いたりすることができるように手立てを講じて、適切な学習評価につなげていきましょう。

【学習活動の工夫の例】

- ・個人、ペア、グループなど学習形態を工夫する。
- ・題材のねらいに沿ったワークシートを活用する。
- ・授業の振り返りでは「活動を通して何を学んだか」という視点でまとめができるようにする。
- ・必ず音や音楽を介して学びを深める。
- ・生徒が実感を伴って学ぶことができるような活動を取り入れる（実践事例参照）。



3学年 鑑賞

「我が国の伝統音楽の特徴を感じ取り、そのよさや魅力を味わおう」

音楽科実践事例


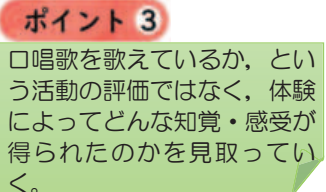
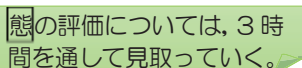
雅楽の特徴に関心をもち、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて理解し、我が国の伝統音楽について自分なりに解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わう。

ポイント 2

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。 注意 鑑賞の題材については、技能の評価規準は設定しない。	思 旋律、速度、テクスチャ を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	態 我が国の伝統音楽の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

指導と評価の計画

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価
第1時	○「越天楽」を視聴する。 ○雅楽に使われる楽器の音色を知覚し、合奏の中での役割について考える。 ○筆箏の口唱歌を歌い、音色や旋律線の特徴から、雅楽の固有性について理解する。	・題材の導入として、雅楽の固有性に着目できるよう、西洋と日本の絵画や庭園など、視覚的に捉えられる美の違いについて考えさせる。 ・発音原理、既習の西洋楽器との共通性や雅楽の楽器の固有性から、明確に音色や旋律線の特徴をつかめるようにする。 ○口唱歌を歌う様子を観察 ◎観察・ワークシートの記述（知）
第2時	○OCDに合わせて口唱歌を歌う。 ○「君が代」を、オーケストラと雅楽それぞれの伴奏に合わせて歌い、違いやよさを考える。 ○「越天楽」を鑑賞し、雅楽のよさや魅力について自分の感じたことや考えたことをまとめる。	・2種類の「越天楽」の音源を使い、拍をとり歌いながら、2つの違いや雅楽らしい表現について意見を交わし共有することで、拍の伸び縮みやずれについて実感を伴って捉えさせる。 ・オーケストラや雅楽の特徴によって生み出される特質や雰囲気について実感を伴って感受させる。 ○口唱歌を歌う様子を観察  ◎観察・ワークシートの記述（思） ポイント 3  口唱歌を歌えているか、という活動の評価ではなく、体験によってどんな知覚・感受が得られたのかを見取っていく。
第3時	○能・歌舞伎と雅楽の音楽を比較聴取し、共通性や固有性、音楽の多様性について考える。 ○「我が国の伝統音楽の魅力」について、自分の意見をまとめる。	・感じ取った共通性や固有性と、それぞれの伝統音楽の背景となる文化や歴史について関連付けて考えさせる。 ○知覚・感受したことの意見交換を観察 ◎観察・ワークシートの記述（態） チェック  態の評価については、3時間を通して見取っていく。

授業改善のポイント

- ① 本題材で学習指導要領のどの指導事項を学ばせるのかについて、明確なねらいをもち、本題材では「B鑑賞」(1)ア(イ)、イ(イ)〔共通事項〕(1)アの指導事項を基に授業を構成した。 ← **ポイント 1**
- ② 鑑賞領域の授業だが、口唱歌を歌うなどの表現活動を通し、実感を伴って特徴を知覚したり、感受したりできるようにした。また、常に比較できる対象を用意し、共通性や固有性を考えることによって、深い理解につなげたり、よさや美しさを味わえたりできるようにした。 ← **ポイント 3**



指導と評価の両面で 生徒の「思い」に寄り添う



ポイント ① 育成を目指す資質・能力を生徒と共有する

美術科の目標は、「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成していくこと」です。その目標に迫るためには、それぞれの題材で育成を目指す資質・能力を明確にして、生徒と共有することが大切です。生徒に伝える際には、資質・能力を分かりやすく短い文にしたり、キーワードにしたりすることが効果的です。

育成を目指す資質・能力を意識して授業を進めることで、教師の声かけや見取りも変わってきます。授業の振り返りでも、「何の学習をしたか」だけでなく、「どのような力が付いたか」といった視点で振り返ることができるようにすることが重要です。

今日の授業では、自分の表現方法を工夫して表していきたいと思います。



きれいに描くだけでなく、自分だけのデザインを考えなくちゃ！

ポイント ② 生徒のよさや可能性を見つけ、積極的に伝える

感性や情操といった生徒一人一人のよさや可能性については、個人内評価の対象で、観点別学習状況の評価の対象にはしないこととされています。しかし、これは評価をしなくてもよいということではありません。教師は個人内評価の部分についても積極的に見取り、生徒に伝えていくことが大切です。（これも大事な評価です。）

このことは全ての教科に当てはまりますが、教科の目標に「感性」や「情操」が含まれている美術科だからこそ、特に意識をしていきたいことです。日頃から生徒の学習の様子に目を配り、生徒の成長を捉えていきましょう。

友達の作品を見ていた時、たくさんほめていたね。



ありがとうございます。（先生はそんなところまで、見てくれたんだ。）

ポイント ③ 生徒の資質・能力が最も発揮される場面で見取る

学習評価を生徒の学習改善と教師の指導改善につなげるためには、評価の時期や方法を工夫して、指導と評価の計画を立てることが大切です。特に、観点別学習状況の評価に用いる評価（記録に残す評価）の場면을精選しておくことで、評価の質を高めるとともに、教師の負担を減らす効果もあります。

全学年を一人で指導することの多い美術科では、効果的で効率的な評価を行うことが重要です。そのためにも、評価をする場面は、生徒がその資質・能力を最も発揮できる場面を選ぶようにしましょう。

この部分、とても工夫しているね。色々と試していたのも見ていたよ。（評価する観点を絞ったから、指導にも余裕ができたわ。）



そうなんです。ここに一番こだわりました。（この部分に気付くなんて、さすが先生！）

2学年

「魅力を伝えるラベルデザイン」

デザイン・鑑賞

美術科実践事例

ミネラルウォーターのラベルのデザインを通して、伝達の効果と美しさなどの調和を考えたり、自分の表現方法を創意工夫したりする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技 色鉛筆やパスなどの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。</p>	<p>発 地域の魅力を伝えるために、伝える相手や内容、地域との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的にラベルのデザインに取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。</p>



ポイント 1

題材の目標だけでなく、評価の観点や方法についても生徒と共有していくことで、授業のねらいが明確になり、評価の信頼性も高まります。

指導と評価の計画（6時間）

時間	学習内容	評価の観点					評価の方法
		○指導に生かす評価		◎記録に残す評価			
		知識	技能	発想 構想	鑑賞	態度	
1	生活の中で目にする既存のラベルデザインを鑑賞し、その目的や工夫を感じ取る。				○		<p>「主体的に学習に取り組む態度」は、各資質・能力が発揮される場面で、その資質・能力と一体的に見取ることが重要です。</p> <p>活動の様子</p> <p>アイデアスケッチ</p> <p>活動の様子・アイデアスケッチ</p> <p>発言の内容・ワークシート</p>
2	商品や地域の特性を考慮しながらコンセプトを決め、デザインを考える。	◎		○			
3	グループ内で自分の考えたデザインを発表する。			○			
4	各グループの代表の作品の鑑賞を行い、デザインのよさや工夫を感じ取る。鑑賞を通して考えたことを基に、自分のデザインを再構成する。		○	◎	○		
5	アイデアスケッチを確認・修正して発表の準備をする。		◎				
6	ラベルデザインを発表し、互いに鑑賞する。				◎	◎	



ポイント 2 は、題材全体を通して意識をしていくことが大切です。

授業改善のポイント

○評価場面の精選

授業の前半では、生徒の学習改善のための評価（指導に生かす評価）に重点を置き、後半で記録に残す評価を実施した。記録に残す評価（◎）の場面を精選しておくことで、その時間に指導すべき内容も明確になった。



ポイント 3

○ICTの活用

作品を発表する場面で、タブレット端末やプロジェクター等を使用した。撮影した作品の画像はそのまま端末に保存されるため、授業後の評価の材料としても活用できた。



【大型スクリーンに作品を映して発表する様子】



豊かなスポーツライフを実現する 資質・能力をどのように評価していくか



ポイント ① ICTの活用場面を適切に設定する

「思考力、判断力、表現力等」を高めるためには、「知識及び技能」を活用して課題を発見し、課題を解決するための学習場面を設定することが必要です。課題を発見し、課題を解決するための手立ての一つとして、ICTの活用が考えられます。「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を関連付けて指導し、ICTを活用して課題を発見する姿や、課題の解決方法について考えを出している姿を評価していきます。なお、ICTを活用する際は、「どの場面で、どんな目的で、何を撮るのか」を事前に明確にしておくことが重要です。また、課題を解決するためには、その手がかりとなる「知識及び技能」を身に付けていく必要もあります。

実践事例では、球技（ネット型）の単元で、「空いている場所を確認して打つ」という学習目標に対して、自分たちがどのような動きをしていたのか課題を発見するためにICTを活用した事例を紹介しています。

ポイント ② 生活と関連付けて思考・判断している姿を評価する

保健分野においては、これまでに学習した内容を課題の解決に適用したり、応用したりして、考えたことを他者に伝える学習場面を設定することで「思考力、判断力、表現力等」の育成を図ります。また、評価規準には、「課題発見」と「課題解決」、「表現」に関する内容を盛り込む必要があり、生徒が思考・判断・表現する場면을効果的に設定した上で、指導・評価することが求められます。

実践事例では、感染症の予防の単元で、学習したことを基に、実生活を例にした学習課題の中で、根拠を立てて適切な予防方法を選択している姿を評価した事例を紹介しています。

ポイント ③ 運動を継続して行う姿を評価する

「主体的に学習に取り組む態度」については、単元全体を通して総合的に評価することが求められています。新学習指導要領では、体育分野において、「各領域において愛好的態度及び健康・安全は共通事項とし、公正、協力、責任、参画、共生の中から、各領域で取り上げることが効果的な指導内容を重点化して示している」とされています。とりわけ、「場や用具の安全に気を付ける」ことは、単元の始めに必ず指導し、評価できるようにすることが大切です。しかし、保健分野にはこの観点についての内容の記載がありません。そのため、保健分野の目標である「生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う」と示している部分を評価の参考にします。なお、指導と評価を一体的に進めるに当たっては、授業を通して「知識」を身に付けさせ、生徒自身の積極性や自主性を促し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成を図ることに留意して評価することが大切です。

実践事例では、器械運動（マット運動）の単元で、体育理論で学習した内容から、「主体的に学習に取り組む態度」について自己評価ができるように観察や学習カードを通して評価した事例を紹介しています。

3学年

球技：ネット型（バドミントン）

保健体育科実践事例

「知識及び技能」と関連付けて課題を発見したり解決したりするために、ICT 機器を活用した授業実践。

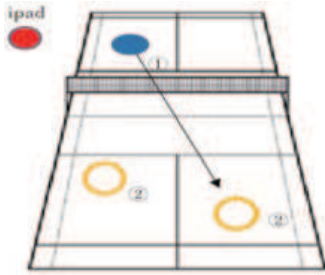
単元の評価規準（一部抜粋）

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ②戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、学習した具体例を挙げている。 ③ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を取り入れ、繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることについて具体例を挙げている。	○技能 ③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ④ラリーの中で、味方の動きに合わせてコートの空いている場所をカバーすることができる。	②自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。	③作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。

ここには、評価規準の一部を載せてあります。学習指導要領解説の例示を基に評価規準を作成します。

指導と評価の計画（一部抜粋）

	学習内容・活動	指導上の留意点
はじめ	1 ランニング、準備体操（10種類） 2 本時の学習の確認	・本時の学習内容を伝えるとともに、前時の学習カードを見て、課題や質問について確認させる。
なか	3 シャトルを遠くまで跳ばず練習 ・ハイクリアーのラリー（2人組） 4 空いている場所を確認して攻撃するための練習 ・2対1の練習（3分×3セット）	◎【観察評価】を行う。 ◎練習の際に、生徒の具体的な学びの姿から、実現状況を判断する。



注意

ICTの使用については、使用目的や方法について指導が必要。映像を撮る位置や向きが変わるだけでその後の活用も変わってしまう。

授業改善のポイント

①本題材では、まず球技について第3学年での指導事項を示した。年間指導計画から実施時期や配当時間等を踏まえ、指導事項を配置した。そこから、該当単元（球技：ネット型）の評価規準を設定した。単元の評価規準を基に学習状況を実現するための具体的な指導内容を明確にした。

◎「単元の評価規準」をしっかりと作成することで資質・能力の育成へとつながる。

②思考力、判断力、表現力等とは、学習指導要領に「各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用したり、応用したりして、他者に伝えることである」と示されている。そのため、生徒が思考し、判断することができるようにするための知識や技能を検討するとともに、活用させる場面の設定やどのような活動をさせるのかについて具体化することが求められる。保健体育科におけるICTの活用については、「何のために、いつ、どこから、何を撮るのか」など具体的な活用方法を指導することで「知識」を活用した学習活動となる。

← **ポイント 1**



技術分野が何をを目指しているかを 評価によって示す



ポイント ① 学習評価の機能を確認する

① 教師からみて：指導の改善のために役立っています。

○学習状況の評価結果を児童生徒の学習や教師による指導の改善，学校全体としての教育課程の改善に生かします。

※評価＝「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割があります。



② 児童生徒からみて：豊かな自己実現に役立っています。

○評価により児童生徒一人一人の学習の成立を促します。

※評価＝「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善において重要な役割があります。

③ 社会に対して：技術分野の学習の何が重要であるか示す役割があります。

○何を評価するかを示すことで，学校が何をを目指しているかを明確にします。

※評価＝「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割があります。

ポイント ② ワークシートの記述はこのように読み取る

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（P55）では，ワークシートの問の「材料の技術や加工の技術とは，どのような条件を考慮して開発・利用されるだろうか。」に対する記述を，次のように判断しています。

■「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の具体的な記述例

○「材料と加工の技術は，材料の性質や特徴を生かすように使われているだけではなくて，値段が高くないかとか，長い年月でも使えるかとか，安全に使えるかとか，その製品を作りやすいかとか，作る時や捨てる時に環境に優しいかとか，そのような様々なことを考えて，バランスが最も良い技術を開発している。」

■「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の具体的な記述例

○「私は授業の時，耐震補強器具の材料や形などを考える時に，使う場所に合っているか，しっかり固定できるか，自分で作れるか，とか，そういうことを考えて，最も良さそうなもの設計しました。だから市販の製品や建物は，もっと多くのことを考えて設計するものだと思います。」

（A）と（B）の違いを，使用者や社会からの要求，安全性などに着目し，複数の相反する要求・条件に対して折り合いをつけ，最適な解決策として開発・利用されていることの共通性を捉えることができてきているかどうかで判断しています。

重要! (B)と判断した生徒を(A)に導く指導や，「努力を要する」状況(C)と判断した生徒に対する手立てを準備しておくことが大切です。

ポイント ③ 評価を行う場面を精選する

記録に残す観点別学習状況の評価については，毎回の授業で全ての観点について行うのではなく，それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行うようにします。

①無理なく評価

②後の学習活動に生かす

①②を踏まえて評価規準を設定するよう配慮することが大切です。(教育課程指導資料 Web 版の事例 2 を参照してください。)



2学年

「エネルギー変換の技術によって持続可能な社会を実現しよう」

技術・家庭科（技術分野）実践事例

様々な発電方法を安全性や社会・産業における役割、環境に対する負荷、経済性などの多様な視点で客観的に評価し、自らが最適と考える発電割合を決定します。

題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み、保守点検の必要性及び、エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができる技能を身に付けている。	持続可能な社会の実現に向けて、エネルギー変換の技術に関する問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているとともに、エネルギー変換の技術の評価し、適切に選択、管理・運用、改良、応用する力を身に付けている。	持続可能な社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、エネルギー変換の技術を工夫し創造しようとしている。

学習指導過程

	学習活動	教師の指導・支援	評価
導入	<p>目標：様々な発電方法を比較し、発電割合を考えて提案しよう。</p> <p>各発電方法の特徴について、簡単に振り返る。</p>	<p>○教科書に載っている発電方式の長所、短所を確認する。</p> <p>ポイント 1 ポイント 2</p> <p>①の発電割合の記述は、指導の改善のための評価。記録に残す評価は③の記述を基に。</p>	
展開	<p>①自分なりの発電割合を決定する。</p> <p>②決定した発電割合を紹介し合い情報共有をする。</p> <p>③再度発電割合を決定する。</p> <p>生徒の考えを共有する場面では、ICTの活用が有効です。</p>	<p>○優先したいと考える順位を記入させる。</p> <p>○紹介では、何を重視して割合を決定したかを説明させる。</p> <p>○全体で共有した発電割合も参考にしつつ、これからの社会の発展と発電に関する技術の在り方を考えさせる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
まとめ	<p>○本時の学習について振り返る。</p>	<p>○本時を振り返らせ、気付いたことをまとめ、発表させる。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>



(B)と判断した生徒を(A)に導く指導や、「努力を要する」状況(C)と判断した生徒に対する手立てを準備しておくことが大切です。

授業改善のポイント

- ①多様な視点から、自らが最適と考える発電割合を決定できるように、各発電方法の長所・短所が分かる資料の工夫と、意見交換の場を設けた。 ← **ポイント 2**
- ②多様な視点から評価をして発電割合を決定することができていない生徒には、他の視点を示して最適解を決定するように個別指導をした。 ← **ポイント 2**



問題解決的な学習の過程で 学びと評価をつなげる



ポイント ① 小学校家庭科とのつながりを大切にする

家庭分野の学習は、小学校家庭科で身に付けた基礎的・基本的な「知識及び技能」等を基盤として適切な題材を設定し、小学校の学習内容との関連を図り、総合的に展開できるよう配慮が必要です。その中で、生徒がどのような資質・能力を身に付けてきたのか確認するとともに、個々の習得状況を確認し、必要に応じて指導方法や教材・教具を工夫し、必要な「知識及び技能」等を中学校卒業時まで身に付けられるようにします。

また、他題材で身に付けた資質・能力を活用するなど、他題材や他教科等とのつながりも大切にします。



輪切りは小学校で何回かやったから大丈夫!

ポイント ② 「題材全体を貫く課題」を設定する

「思考・判断・表現」の評価については、家庭分野の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価します。題材の始めに、生徒の生活経験や小学校での学び、調査等から「題材全体を貫く課題」を生徒の言葉で設定できるようにします。そして、様々な解決策を構想し、実践を評価、改善し、考察したことを論理的に表現できるようにします。

「主体的に学習に取り組む態度」の観点における評価では、生徒が設定した課題の解決に主体的に取り組んだり、実践を振り返って改善したりしているか、ポートフォリオ等から評価します。

題材を貫く課題
目指せ!賢い消費者!
自分の課題
本当に必要なものを損をせずに買えるようになる。
課題設定の理由: 今までにはまだ必要では無い物を買ってしまったということがあったから。
【 3年・題材名 目指そう賢い消費者 】

ポイント ③ ICTを活用して、より充実した評価を実現する

生徒は学習過程の中でICTを活用することにより、可視化したものを相互評価や自己評価の根拠として活用することができます。例えば、課題解決に向けた実践活動の場面では、撮影した写真や動画により各自の技能や考えを可視化し、技能の習得状況の確認や自己評価・改善に生かすことができます。実践活動の評価・改善の場面では、自分の実習等の様子を可視化し、自己評価・改善に生かすことができます。教師はこれらを活用したり、コンピュータやデジタルカメラ等を用いて生徒の作品や製作物を記録・集積したりして、学習活動の過程や成果などの記録やポートフォリオによる評価をすることができます。



【 2年・題材名 アップサイクルをしよう 】

2 学年

「調理の基礎」



B (3) 日常食の調理と地域の食文化

技術・家庭科（家庭分野）実践事例

調理操作について課題を設定し、課題を解決する過程で必要な資質・能力を身に付け、調理実習の題材につなぎ、活用できるようにする。

題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 加熱調理の調理操作について理解しているとともに、適切にできる。 	<p>日常の調理における調理操作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理について課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し実践しようとしている。</p>

学習過程と主な学習活動

ポイント ①

小学校で学んだ技能を、身に付けたと判断した理由とともに把握し、まだ十分身に付いていないものを全体で解決する課題や個人で解決する課題につなげられるようにする。

小学校や家庭での調理操作を振り返って	
自分がやったことがあるもの、できるもの ゆでる、切る、焼く、量る、焼く、蒸す、いためる、蒸す、味付け 洗う、みやす、つぶす、わる、まぜる こねる	やったことがないもの、苦手なもの いためる、蒸す、味付け
…その理由 自分からやってみて成功できた調理だから	…その理由 やってみると少なくて少なくてできなかったから

①生活の課題発見	小学校の調理実習や日常生活を振り返り調理操作について課題を設定する
②解決方法の検討と計画	<ul style="list-style-type: none"> 調理室の使い方を確認する 調理器具の使い方を確認する 色々な切り方(包丁を使った実技)
③課題解決に向けた実践活動	「焼く」「蒸す」「煮る」の加熱方法による比較実験
④実践活動の評価・改善	調理実習に向けて、調理操作の工夫についてまとめる
家庭・地域での実践	※調理実習の題材へ

題材全体を貫く課題

ポイント ②

「食事を豊かにおいしくする適切な調理方法とは？」

生徒の解決したい課題や「見方・考え方」(本題材では、健康・快適・安全)を言葉として位置付けたり生徒に投げかけたりして「見方・考え方」からアプローチしていく方向性を示す。

家庭分野では、「見方・考え方」が課題と直結し解決する目的となる場合と、課題に対して様々な「見方・考え方」が表出してくる場合が考えられる。

指導改善のポイント

ポイント ① 実習等をすることで技能の習得状況を確認できる。

ポイント ③ ICTを活用し撮影した動画等により、生徒は各自の技能や考えを可視化し、技能の習得状況の把握や自己評価・改善に生かすことができる。また、動画等に残すことで教師は「指導に生かす評価」として活用し、「記録に残す評価」につなげるようにする。

自分の言葉で方法を記入し、写真を貼ることで、「切り方」の語彙の意味を実感を伴って理解させることができる。



本題材では「指導に生かす評価」のみで、「記録に残す評価」は調理実習の題材で行う。



実践事例の詳細は右のQRコードから



領域統合型の言語活動を通して 生徒のパフォーマンスの変容を評価する

ポイント ① パフォーマンス課題を設定し、学習の見通しをもたせる

新学習指導要領では、言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指しています。

各校の年間指導計画と CAN-DO リストに基づいて、単元（もしくは複数単元）のゴールであるパフォーマンス課題を設定し、指導と評価の計画を立てます。当該単元の学習を始める前に、生徒にパフォーマンス課題と評価基準表（ルーブリック）を示し、この単元では、「英語を使って何ができるようになるればよいか」を共有します。そうすることで、生徒は学習の見通しがもて、教師も最終目標に向かって、系統的・継続的な指導と評価を一体的に行うことができます。

学習到達目標(CAN-DOリスト)

パフォーマンス課題(テスト)
評価基準(ルーブリック)

授業中の言語活動

ポイント ② 領域統合型の言語活動を通して、指導と評価を繰り返す

中学校外国語科においては、複数の領域を効果的に関連付ける統合的な言語活動を重視しています。

例えば、「聞くこと」「読むこと」で得た知識や情報、考えなどを活用して「話すこと [やり取り] [発表]」「書くこと」において、適切に表現し伝え合う言語活動を工夫して行うことができます。同様の言語活動を相手や役割を変えながら繰り返し行い、学びを深めます。言語活動と言語活動の間には、内容面と言語面において中間指導・形成的評価を行い、生徒の「気づき」を引き出します。評価を指導に生かすことがとても大切です。

日常生活では、聞いた話をメモして人に伝えたり、読んだ内容を文章にまとめて口頭で発表したりしますよね！



聞いたり読んだりしたことについて友達と話した方が、自分の考えをもちやすいです。話したり、書いたりする内容が発展したり、深まったりします！



ポイント ③ 振り返りシート等を活用し、記録に残す評価を工夫する

記録に残す評価は、「単元の終末」もしくは「複数単元の後」に行います。資質・能力が高まってから評価を行う考え方です。パフォーマンス評価では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に評価することが可能ですが、一度に3観点を見取るとは難しいことも考えられます。例えば、パフォーマンステストを行う前に、リテリングなどで「知識・技能」のみを授業中に評価することもできます。動画を撮るなど、評価方法を工夫する必要があります。その結果はパフォーマンス評価に加味することもでき、記録に残す評価の信頼性・妥当性を高めることにもつながります。

また、振り返りシートの記述から、「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることも大切です。振り返りの記述は、生徒の思考が可視化されたものです。振り返りをさせる際、教師はどのような自己調整をさせたいかイメージをもちましょう。その記述が、言語活動において、実際に態度となつて表れていれば、評価に加味することができます。

前回のテストでは、ALTの〇〇先生からの質問に答えているだけでした。今回は、〇〇先生のことを考えて質問したり、答えたりすることができました。会話が続くようになってきています。



3学年

「防災マニュアルを読んで、災害時の対応についてALTとやり取りしよう。」

外国語科実践事例

単元名：To Our Future Generations

(NEW HORIZON Unit 4)

防災や震災の逸話などに関して書かれた英文を読み、外国の人と災害時の対応について話す。

評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語 [5000]	<ul style="list-style-type: none"> 不定詞の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 防災や災害について、考えたことや感じたことなどを、既習表現や不定詞などを用いて伝え合う技能を身に付けている。(※1) 	相手に必要な情報や考えを伝えるために、防災・災害に関して読んだことを引用したり、理由を加えたりしてアドバイスしながら、やり取りをしている。(※2)	相手に必要な情報や考えを伝えるために、防災・災害に関して読んだことを引用したり、理由を加えたりしてアドバイスしながら、やり取りをしようとしている。(※3)

指導と評価の計画（関係箇所のみ）

時間	主な言語活動 (○)	評価			
		知	思	態	(※) 評価規準 (評価方法)
1	◆単元の目標と評価を理解する。 ポイント 1 ○教科書の「避難訓練のお知らせ」を読み、 読み取れた内容をペアで伝え合い、その内容を書く。				★本時では目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。
2	○災害時（地震）「何をすべきか」「どこに行くべきか」自分の考えをペアで伝え合う。※疑問詞+to do… ○英文を引用する表現 (The handout / map says…) を学ぶ。				思考・判断・表現 ALTへアドバイス ①理由を述べる b ②資料引用 } a ③自ら質問
3	○災害時（火事）「必要があること」「重要なこと」を ペアで伝え合い、自分の考えを書く。 ※It is ~ (for 人) to do…		ポイント 2		
4	○ 教科書本文を理解し、 絵や語句をヒントに内容を ペアに伝えその内容を書く。				
5					
6	○災害時（豪雨）「相手にしてほしいこと」やその理由をペアで伝え合う。※want (人) to do…				
7	○前時までの内容を踏まえ防災についてペアで話す。 ○本文内容の 要約や自分の考えなどを書く。	○			(※1) 行動観察・振り返りシート記述
8	○市の防災マニュアルやハザードマップを見て、ALTのために必要な情報をペアで伝え合う。 ポイント 3		○	○	(※2 ※3) 行動観察・振り返りシート記述
9	パフォーマンステスト 近年、地震だけでなく豪雨による災害などが増えていて、ALTは不安に思っています。災害時にどこへ行ったらいいか、何を準備したらいいかなどを聞きたがっているので、自分で用意したメモやハザードマップ、防災マニュアルを用いて、理由を含めてアドバイスしてください。また、あなたから質問しても構いません。	○	○	○	行動観察・ループリック

授業改善のポイント



- ①パフォーマンステストにおいて、ハザードマップや防災マニュアルなど学校区の実物資料を使うことで、より実際の場面を意識したコミュニケーション活動を行うことができた。**ポイント 1**
- ②読んだことを話す、話したことを書くといった活動に、複数回取り組むことで学びを深めることができた。ペア活動を中心にフィードバックを重ね、生徒が気づき、学ぶ機会を設けた。**ポイント 2**
- ③振り返りシートの記述を評価に生かした。帯活動やその他のペア活動などで話した内容を振り返りシートに英文で書かせ、正確性の指導や評価につなげる工夫をした。また、タブレット端末で生徒のパフォーマンスを録画し、記録に残す評価に活用した。英語表記のループリックを使ってALTと打ち合わせをし、信頼性・妥当性のある評価に努めた。**ポイント 3**

Knowledge / skill	Ability to think / judge / express	Attitude
a. can use ~ It is ~ for ~ to ~ what to ~ / how to ~ want (ask) ~ to ~ other expressions they've learned	can ~ answer ALT quote the hazard map or the guide sheet add reasons ask about ALT	try to do 2-b
b. can use / a few phrases: It is ~ for ~ to ~ what to ~ / how to ~ want (ask) ~ to ~ other expressions they've learned	can ~ answer ALT add reasons	try to do 2-b
c. can't achieve 'a'	can't achieve 'b'	can't achieve 'c'

英語表記のループリック

実践事例の詳細は右のQRコードから

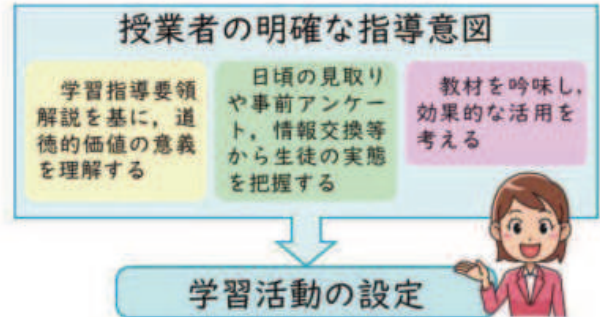


生徒の心の成長の様子を 積極的に捉え、認め、励ます



ポイント ① 「考えさせたいこと」を基に学習活動を設定する

道徳科の授業構想では、授業者の明確な指導意図が欠かせません。明確な指導意図とは、生徒にどのようなことを考えさせ、どのようなことに気付かせたいのかを明らかにすることです。そのためには、道徳的価値の意義を理解すること、道徳的価値に関する生徒の実態を把握すること、教材の効果的な活用を考えることが大切です。これらを端的に表したものが「ねらい」となります。授業者の明確な指導意図を基に、学習活動を設定していきます。



ポイント ② 学習活動を基に生徒の様々な学びの姿を想起する

道徳科の評価は、「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を継続的に把握していくことが大切です。つまり、生徒の学習状況を見取ることから始まります。学習状況とは生徒が授業で学んでいる姿であり、目標に示されている学習活動の「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」です。これを基に、生徒の様々な学びの姿を想起します。

- ①多面的・多角的な見方へと発展させているか
 - ・ねらいとする道徳的価値を様々な面から考えている。
 - ・道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
 - ・様々な登場人物の立場で考えている。
 - ・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
 - ・人間の弱さや強さ等を捉えて考えている。
 - ・自分と違う意見や立場を捉えて考えている。

評価では、
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
といった点に着目することが重要です。
授業者は、明確な指導意図をもって、学習指導過程や指導方法を工夫しながら授業を構想していくことが大切です。

- ②自分自身との関わりの中で深めているか
 - ・教材の登場人物を自分に置き換えて考えている。
 - ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
 - ・日常や学校生活等を想起しながら考えている。
 - ・自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
 - ・自分だったらどうするか考えている。

ポイント ③ 生徒の学びの姿を見取る（具体的な評価の方法）

評価は、個々の教師が個人として行うのではなく、学校として組織的・計画的に取り組むことが重要です。取組の蓄積と定着が、評価の妥当性、信頼性を高めることにつながります。

自己評価や相互評価

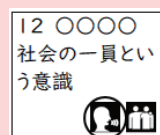
生徒の学びの傾向の把握や、授業改善の資料として役に立ちます。ノートやワークシートに位置付け、活用している例が多くあります。

チームによる評価

相互に授業を参観し、他の教師と協力して行う評価の一つです。生徒の新たな一面を見ることができ、生徒の学習状況をより多面的・多角的に把握することができます。

エピソード記録

【座席表（例）】



指導者が、座席表やノート等に生徒の学習状況（発言や話合いの様子等）を記録していく方法です。毎時間全員を記録していくことは難しいので、計画的に学習状況を見取ることが大切です。

1 学年

「よりよい社会をつくるために」

C-(12)社会参画，公共の精神

道徳科実践事例

教材「僕たちの未来」(出典：光村図書)を活用して，地域社会の課題を自分事として捉え，自分にできることを模索しながら，社会に関わることの意義について考える。

評価の視点

- ・「僕」の心情や社会をよりよくするために大切なことについて，多面的・多角的に考えていたか。
- ・よりよい社会をつくることについて，自分との関わりの中で考えを深めていたか。

ポイント 1



<生徒の実態>教師の見取りから

身近な人のことについて考えられる生徒が多いが，社会の一員としての認識が浅く，ボランティア活動等，社会における様々な活動に積極的に参加しようとする生徒が少ない。

<教材の効果的な活用>

ボランティア活動に積極的ではなかった「僕」の考えが，浜井さんの話を聞いて変化するという内容である。「僕」の心情の変化を追うことで，社会の一員として，社会に関わる意義について考えられるだろう。

<考えさせたいこと>

地域社会の課題を自分事として捉え，自分にできることを模索しながら，社会に関わることの意義について考えさせたい。

<ねらい>

「社会に関わること」の意義について考えることを通して，社会の一員であるという自覚を深め，よりよい社会をつくろうとする態度を育む。

学習指導過程 (一部抜粋) **ポイント 2**

本時のねらい及び考えさせたいことを基に，生徒の様々な学びの姿を想起し，学習指導過程を構想した。

展開	<p>3 よりよい社会をつくるために大切なことについて話し合う。 ◎私たちの社会をよりよくするために，どのような考えが大切だと思いますか。(ワークシート記入，話し合い)</p> <p>社会をよりよくするために大切なことについて様々な面から考える活動</p>	<p>予想される生徒の発言を多面的・多角的に考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる地域や身近な社会に関心をもつ。 ・他人事にしないで，社会の一員としての自覚をもつ。 ・社会をよくするために，自分が所属している社会について知ろうとする。 	<p>◆具体的な評価の視点(方法)</p> <p>◆社会をよりよくするために大切なことについて，多面的・多角的に考えているか。(ワークシート)</p>
	<p>4 本時の学習を振り返り，自分たちの住む地域や社会をよりよくするために自分たちにできることについて考える。(ワークシート記入)</p> <p>自分の生活を見つめ，振り返りながら考える活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で取り組んでいる活動に協力することから始めたいと思った。 ・今までは，誰かに言われてから参加することが多かったけれど，自ら積極的に参加していきたい。 	<p>◆自分の住む地域にも目を向け，自分にできることについて考えるなど，よりよい社会をつくることについて自分との関わりにおいて考えているか。(ワークシート)</p>

ポイント 3 ワークシートから生徒の学びの姿を見取る



ワークシートは，全ての発問で書かせるのではなく，指導意図に基づいて，書かせる場面を精選しましょう。

①多面的・多角的な見方へと発展させている生徒の感想

この話のように私が地域のためにできることは何かあるのかとより深く考えた。「ボランティア」としてもたくさんの活動があり，地域の歴史や思いを受け継いでいるものもある。それを私も受け継ぐ一人になれたら良いと思う。

→内容項目「C-(16)郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」と関連付けて，ねらいとする道徳的価値を様々な面から考えている。



②自分自身との関わりの中で深めている生徒の感想

自分たちの地域，社会，未来を自分と同年代の人が守ろうとしている姿がすごいと思った。今後は，周りのことを考えて，次世代の人がやりやすい，やりたいと思えるような社会との関わりをもちたい。



実践事例の詳細は右のQRコードから



生徒の変容を見取る 評価規準を設定する



ポイント ① 資質・能力を踏まえた単元の目標と評価規準を作成する

単元の目標と評価規準を作成する際は、生徒の実態や地域の特性を生かした上で、新学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）に示されている内容と、以下に示すポイントに沿って設定します。

単元の目標		
単元の目標は、次の4つの要素を構造的に配列して作成 <ul style="list-style-type: none"> ・探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動（～を通して） ・単元において重視する「知識及び技能」（～について理解し） ・単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」（～を考える） ・単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」（～に生かす） 		
単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①概念的な知識の獲得 ②いつでも、滑らかに、安定して、素早く発揮することが可能な技能の獲得 ③探究的な学習のよさの理解 ※文末表現は「～について理解している」、「～を身に付けている」などとして設定します。	④課題設定 ⑤情報の収集 ⑥整理・分析 ⑦まとめ・表現 探究的な学習の過程で育成される資質・能力を生徒の姿として示す。 ※文末表現は「～している」として設定します。	⑧自他を尊重する自己理解・他者理解 ⑨自ら取り組んだり力を合わせたりする主体性・協働性 ⑩未来に向かって継続的に社会に関わろうとする将来展望・社会参画 ※文末表現は「～しようとしている」として設定します。

ポイント ② 内容のまとめりごとに、指導と評価の計画を作成する

設定した内容のまとめりを基に、小单元ごとに指導と評価の計画を作成します。以下のような形式で示すことがポイントです。

小单元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1. ○○について知る（3）	・「○○」の活動を…			⑨	・発言内容
2. △△についての… （8）	・△△の特徴を整理し… ・体験学習から得た…	③	⑥		・発言内容 ・ワークシート

ポイント①で示す単元の評価規準の番号とリンクします

ポイント ③ 生徒の変容や新たな課題を、探究的な過程から見取る

探究的な学習に協働して取り組む中で、継続的に自らの問いや学びの意義を見だし、課題解決に取り組もうとする態度に現れてくると考えることができます。それを見取るために、ワークシートを工夫し、ポートフォリオ形式や、毎時間の感想に継続性をもたせることなどが考えられます。さらに、協働学習などの場面における生徒の発言からも思考の変容を見取ることが可能となります。

また、評価を観点ごと総括することも重要です。活動や学習の過程、作品や成果物、発表や討論などに見られる学習の状況や成果などについて、生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて評価結果を総括します。適切に判断することにより、確かな評価となります。

2学年

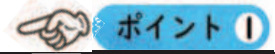
「地域の一員として 将来の生き方を考える」

総合的な学習の時間実践事例

単元：地域の発展に向けて取り組む人々
地域の特質や生徒の発達段階を踏まえて、生徒の探究課題（問い）を引き出す。

単元の目標

職場体験等を通して、地域や働くこと、職業についての知識・理解を深め、自ら課題を見つけ主体的に判断し、考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。



ポイント1 と学校目標に沿って表現する。一文でなくともよい。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の人のころ柿作りへの思いについて理解している。 ②地域の人と分かりやすい話し方をしたり、情報交換をしたりし、適切な関わりについて理解している。 ③地域の職業について調べることを通して、その地域で探究的に学んだ成果を身に付けている。	④解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を考えている。 ⑤目的に応じて手段を選択し、適切な方法で情報を収集し蓄積している。 ⑥調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。 ⑦問題状況における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見つけている。	⑧探究的な活動を通して、自分の生活及び地域との関わりを見直し、自分の特徴やよさを理解しようとしている。 ⑨自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。

ポイント1 に示してある①～⑩に沿った形で設定する上で、文末表現も意識する。

指導と評価の計画（一部省略）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1.ころ柿職場体験学習について知る（3）	・職場体験学習の意義と概要を知る。 ・地域の特産である「ころ柿」について主体的に学習する。	①			・発言 ・ワークシート
2.目標・課題解決に向けた研究計画を立てる（2）	・職場体験学習の目標・課題を立てる。 ・職場体験学習の目標・課題を解決するために研究計画を立てる。		④	⑨	・発言 ・ワークシート
3.研究計画に基づく調べ学習をする（5）	・「ころ柿」について学習することにより、地域について知るとともに将来について考える。 ・職場体験学習に向けての事前学習をする。		⑤		・ワークシート ・スライド



評価のポイント

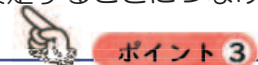
ウェビングマップを利用し自分の研究テーマを決めよう

生徒が作成したウェビングマップ



評価

授業の導入部分では、中央付近にあるようなキーワードがどの生徒も多かった。ウェビングマップを利用し、それらのキーワードについて思考を深めていく中で、疑問が生まれ、自ら調べてみたい研究テーマを設定することができた。



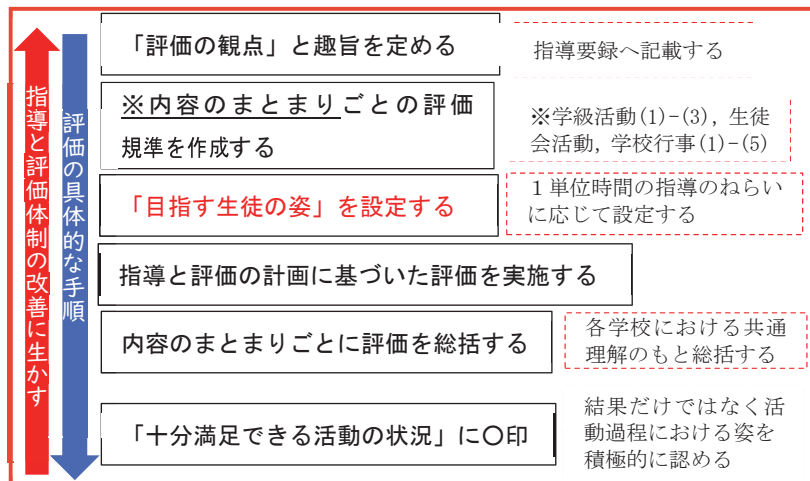
重要！ 探究的な学習の過程において、ウェビングマップを用いることで、生徒の学びの変容を見取ることもできる。



生徒の自発的・自治的な活動を見取り 社会参画に向けた資質・能力を育む

ポイント ① 「目指す生徒の姿」に基づいて多面的・総合的に見取る

特別活動の評価において最も大切なことは、生徒一人一人のよさや可能性を生徒の学習過程から積極的に認めるようにするとともに、育成を目指す資質・能力がどのように成長しているかということについて、**各個人の活動状況を基に多面的・総合的に評価**することです。そのためには、右図に示した手順に即して、学校全体として組織的・計画的に評価を進めていく必要があります。特に**1単位時間の授業**において



では、内容のまとめりごとの評価規準を踏まえ、指導のねらいに応じた「**目指す生徒の姿**」を設定し、活動において表出された生徒の姿を見取ります。

ポイント ② 生徒にとって、切実感のある議題を取り上げる

新学習指導要領では、特に中学校において学級活動(1)の指導の充実を通して自治的能力や積極的に社会参画する力を育てることができるよう、従来14項目あった(2)、(3)の内容を8項目に整理しています。各学校には、生徒自身が身近な学級・学校生活の中から課題を見だし、話し合い活動によってよりよい解決に向けた合意形成を図る、**自発的・自治的な学級活動(1)の充実**が求められています。そこで大切になるのが議題の選定です。年間指導計画においては教師の見通しのもと「予想される議題例」を設定し、実際の議題については生徒が自分事として捉えることができるよう、切実感のある議題を学級全員で決定することが基本です。そのために、提案カード(▲資料1)や学級アンケートを活用して日常的に生徒自身の参画意識の涵養を図るとともに、運営委員会・学年生徒会等により議題を決定する組織づくりと仕組みづくりを進めましょう。

提案カード・相談カード	期	日	名簿	
提案します。	<input type="checkbox"/>	個人から	<input type="checkbox"/>	席から
相談します。	<input type="checkbox"/>	個人から	<input type="checkbox"/>	クラスのこと
提案したいこと				
<input type="checkbox"/>	みんなで作ってみたい。		<input type="checkbox"/>	みんなで作ってみたい。
<input type="checkbox"/>	みんなで作りたい。		<input type="checkbox"/>	お聞きしたい。
<提案内容・提案理由>				

▲ 資料 1

ポイント ③ 生徒自身が話し合い活動の価値を実感できる評価にする

自発的・自治的な活動によって得られた新たな認識や合意形成は、生徒相互の信頼関係を深めるとともに、生徒の自己有用感や社会参画への意欲の高まりにつながります。そこで、教師は適切にその活動を見取り、不断に生徒にフィードバックを行うことで、生徒自身が集団の中の自分のよさや話し合い活動の価値を実感できるようにします。そのために、場面に応じて次のような評価を組み合わせましょう。

- ① 「目指す生徒の姿」に基づいた評価…積み重ねにより、主に通知表や指導要録に生かす。
- ② ワークシートによる自己評価…①を補完するとともに、主に授業改善及び学習改善に生かす。
- ③ 話し合い活動の終末等における生徒自身の相互評価…主に学習改善に生かす。
- ④ 教師の対話的な関わりによる形成的評価…主に学習改善に生かす。

3学年（学級活動（1））

「目指す合唱発表会を確認し、
それに向けた取組を考える」

特別活動実践事例

学級活動（1）学級や学校における生活づくりへの
参画-ア学級や学校における生活上の諸問題の解決

- 最後の合唱発表会をどのような会にしたいのかを考え、明確にする。その後、現在の学級の課題を踏まえ、その実現に向けた取組を話し合い、合意形成を行う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

指導と評価の計画（※主な評価場面を抜粋）

過程	主な生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿【観点】 (評価方法) ポイント 1
事前	学園祭の振り返りと合唱発表会に向けたアンケート調査に回答する。	生徒自身のアンケート結果から議題と提案理由を決めることができるよう、アンケート作成段階から合唱実行委員による主体的な取組を支援する。 ポイント 2	◎アンケートに回答することで、学園祭での取組を振り返ったり、合唱発表会への意欲をもったりして、学習への見通しをもとうとしている。【主体的態度】(アンケート、観察)
本時	1 今日の学級会の議題と提案理由を確認する。 2 話し合い活動をする。 ①今の学級のよさと課題について ②目指す合唱発表会について ③目指す合唱発表会に向けた取組について 3 決定事項を確認する。 4 学級会の振り返り 重要! をする。	<ul style="list-style-type: none"> 合唱実行委員の議題への思いを学級全員が理解し、全員で考えていくべき議題であることを確認できるようにする。 合唱実行委員が話し合いを進める。教師は生徒の主体的活動の支援に当たり、合意形成の意向付けにかかわる助言は行わない。 全員で取り組むことについてキャリア・パスポートへ記入できるようにする。 自己評価に対話的にかかわる。 注意	◎今の学級のよさや課題を見だし、それを踏まえてよりよい学級や合唱発表会について考えている。【思考・判断・表現】(発言、観察、 キャリア・パスポート) チェック ◎目指す学級の姿や合唱発表会の実現に向けて具体的な取組を考え、根拠を明確にしながらかたり、意見の相違について考えたりしながら合意形成に関わっている。【思考・判断・表現】(発言、観察、 キャリア・パスポート) ポイント 3
事後	学級での決定を基に、個人目標を決め、キャリア・パスポートを用いて取組の振り返りを行う。	学級の決定と個人目標に基づいた振り返りを行い、今後の課題や自他のよさ、自分らしさ等について多面的に気付くことができるように対話的に関わる。 ポイント 3	◎合唱発表会の成果と課題を振り返り、学級や個人のよさに気付いたり、今後の活動や自己の成長に生かそうとしたりしている。【主体的態度】(キャリア・パスポート、観察)

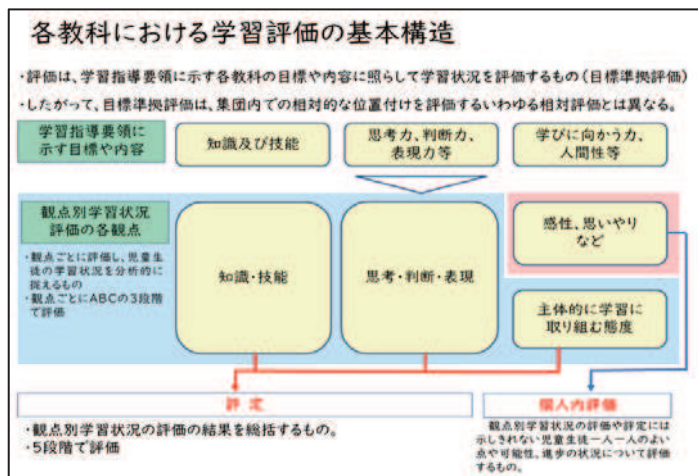
授業改善のポイント

- ①生徒の自発的・自治的な活動とするため、事前の活動（休み時間）の中で合唱実行委員と教師による打ち合わせを行い、話し合いのねらいや流れの確認、役割分担について助言した。
- ②キャリア・パスポートを活用し、一連の取組や生徒の気づき等を蓄積した。それを「目指す生徒の姿」による評価や教師の対話的な関わりに生かして、自己のよさへの気づきを促した。



学習評価の基本的な考え方と参考資料の紹介

学習評価とは、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。学習評価の目的は、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることです。そのためには、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。



★★★★★ 学習評価を充実させるための参考資料を紹介します ★★★★★

【基本編】学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編)

- ・学習評価の基本的な考え方
- ・学習評価の基本構造
- ・特別の教科 道徳, 外国語活動, 総合的な学習の時間及び特別活動の評価について
- ・観点別学習状況の評価について
- ・学習評価の充実
- ・Q&A -先生方の質問にお答えします-



【応用編】「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

- ・総説(学習指導要領改訂の方針, 学習評価の基本的な考え方等)
- ・学習指導要領の規定から評価規準を作成する際の手順
- ・学習評価に関する事例

学習評価の基本的な考え方や、各教科等における評価規準の作成及び評価の実施等について解説しているほか、各教科等別に単元や題材に基づく学習評価について事例を紹介しています。



上記2つの参考資料は、国立教育政策研究所の Web サイトで閲覧及びダウンロードが可能です。右側のQRコードからもアクセスできますので、ぜひ一度、ご覧ください。
 (<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouusiryoku.html>)



学習評価についてのQ & A

Q1. 「主体的に学習に取り組む態度」はどのように評価をすればよいですか。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向のみを評価するということではありません。各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、「知識及び技能」を習得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要です。

従前の「関心・意欲・態度」の観点も、各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方に基づいたものであり、この点を「主体的に学習に取り組む態度」として改めて強調するものです。



Q2. 評価の信頼性や妥当性を高めていくためには、何が大切ですか。



学習評価の信頼性や妥当性を高めていくためには、評価規準を適切に設定し、評価の方針について、生徒や保護者と共通理解を図ることが重要です。そのためには、評価の時期や方法について、事前に生徒にも説明しておくことが大切です。そうした取組を続けていくことで、教師の指導改善や生徒の学習改善にもつながります。

ペーパーテストなどの内容についても、その問題がその各観点の資質・能力を問う問題として妥当かどうかを、再度検討する必要があります。そのためには、校内研究会等で、定期テストについての情報共有や意見交換をしていくことが大切です。

Q3. 評定への総括は、どのように進めればよいですか。

評定は、各教科の観点別学習状況の評価を総括した数値を示すものです。A, B, Cの組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろえば、「BBB」であれば3を基本としつつ、「AAA」であれば5又は4、「CCC」であれば2又は1とするのが適切であると考えられます。それ以外の場合は、各観点のA, B, Cの数の組合せから適切に評定することができるようあらかじめ各学校において決めておく必要があります。

なお、各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。



令和2年度教育課程研究会 実践事例一覧

教科等	学年	単元・題材名	キーワード
国語	2年	「あの日の自分」の物語を書こう	〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕との関連
国語	1年	「竹取物語」の魅力を簡潔な言葉で伝えよう	評価場面の精選
国語	2年	作品中の「家族の絆」を見つけよう	評価場面の精選
社会	1年	律令国家の形成と摂関政治（歴史）	単元を貫く問い
社会	2年	日本の諸地域<中国・四国地方>（地理）	学習のまとめシート
社会	3年	個人の尊重と日本国憲法（公民）	学びの地図
数学	3年	相似な図形（3B(1)「図形の相似」）	「主体的に学習に取り組む態度」の評価
数学	2年	一次関数（2C(1)「一次関数」）	「思考・判断・表現」の評価
数学	3年	関数 $y=ax^2$ （3C(1)「関数 $y=ax^2$ 」）	「主体的に学習に取り組む態度」の評価
理科	3年	水溶液とイオン（原子の成り立ちとイオン）	「主体的に学習に取り組む態度」の評価
理科	3年	水溶液とイオン（原子の成り立ちとイオン）	「思考・判断・表現」の評価
理科	2年	化学変化（化学変化、化学変化における酸化と還元）	「主体的に学習に取り組む態度」の評価
音楽	1年	我が国の伝統音楽のよさや魅力を味わおう（器楽・鑑賞）	器楽と鑑賞の関連
音楽	2年	我が国の伝統音楽や芸能に親しみ、そのよさを味わおう（鑑賞）	音楽の共通性や固有性
音楽	3年	我が国の伝統音楽の特徴を感じ取り、そのよさを魅力を味わおう（鑑賞）	我が国の伝統音楽の比較聴取
美術	1年	あの時の私の気持ち（絵や彫刻・鑑賞）	「知識」の評価
美術	2年	魅力を伝えるラベルデザイン（デザインや工芸・鑑賞）	I C Tの活用
美術	2年	時を超えて、出会う想い～仏像の鑑賞～（鑑賞）	「思考・判断・表現」の評価
保健体育	3年	球技 ネット型（バドミントン）	I C Tの活用
保健体育	3年	保健分野 感染症の予防	「思考・判断・表現」の評価
保健体育	2年	器械運動（マット運動）	「主体的に学習に取り組む態度」の評価
技術	2年	エネルギー変換の技術によって持続可能な社会を実現しよう	ワークシート記述の評価と指導
技術	3年	より便利で、安心・安全なチャットソフトを開発しよう	評価規準の整理・統合、「主体的な学習に取り組む態度」の育成
家庭	2年	調理の基礎	小学校とのつながり、「知識・技能」の評価
家庭	3年	目指そう賢い消費者	「題材全体を貫く課題」の設定、「思考・判断・表現」の評価
家庭	2年	アップサイクルをしよう	I C Tの活用、「主体的に学習に取り組む態度」の評価
外国語	3年	防災マニュアルを読んで災害時の対応についてALTとやり取りをしよう	話すこと〔やり取り〕、「思考・判断・表現」の評価
外国語	2年	日本に来たばかりのALTが興味をもつように日本の昔話を紹介しよう	話すこと〔発表〕、「知識・技能」の評価
外国語	1年	担任の先生にぴったりの相棒“Go To GUY”を紹介しよう	書くこと、「思考・判断・表現」の評価
道徳	1年	よりよい社会をつくるために C-（12）社会参画、公共の精神	I C Tの活用、ワークシート
道徳	2年	心に灯す思いやりの明かり B-（6）思いやり、感謝	事前アンケート、板書、ワークシート
道徳	3年	規範意識の向上 C-（10）遵法精神、公德心	キーワード化、振り返りシート
総合	2年	地域の一員として将来の生き方を考えよう	「思考・判断・表現」の評価
総合	3年	将来の生き方を考えよう	「主体的に学習に取り組む態度」の評価
特活	3年	合唱発表会の取組（学級活動(1)-ア）	自発的・自治的な話し合い活動、社会参画
特活	3年	卒業に向けて（学級活動(1)-ア）	I C Tの活用、自発的・自治的な話し合い活動

これらの事例と小学校版の実践事例は、教育課程研究会のWebサイトに掲載しています。



山梨県教育庁義務教育課

